



慶應義塾大学ビジネス・スクール

## 会計リテラシー分析編 2016年

5

本ケースでは、比例縮尺財務諸表から各社の社名とビジネスモデル（もうけの構造）を読み解くことを目的としている。分析方法の基本は、比例縮尺財務諸表の大きな数字に注目し、その数字がなぜ大きいのかを読み解くことである。時系列の分析であれば、数字の変化がなぜ起きたのかについて仮説をたてることが重要である。

10

15

※ 注意事項：現預金等には短期保有の有価証券を含んでいる

※ 省略表記：有固＝有形固定資産、無固＝無形固定資産（のれんを含む）、投資＝投資その他、  
有負＝有利子負債

20

25

本ケースは、公表資料をもとに慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 村上裕太郎がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 村上裕太郎（2016年7月作成）